62期卒 原 奈美(旧姓:土屋)さんが 令和7年度 全国優良畜産経営管理技術発表会で 最優秀賞・農林水産大臣賞を受賞されました

６２期卒・山梨県支部の原　奈美（旧姓：土屋）さんが、令和７年度全国優良畜産経営管理技術発表会で「最優秀賞・農林水産大臣賞」を受章されました。

発表会は令和７年１１月に東京都千代田区の都市センターホテルで開催され、全国から選ばれた８事例の発表の後、最優秀賞４事例、優秀賞４事例が選賞され、各受賞者に対し表彰状の授与が行われました。

原さんは「アニマルウェルフェアへの取り組みと共に、安全・安心を追求した甲州牛生産の匠ー八ヶ岳の大地で牛と歩む未来へー」の演題で発表を行い、栄えある最優秀賞を受章されました。

学園の畜産コースを卒業後、地元山梨の県機関で実務経験を積んだ後、家族で牧場を経営して「甲州牛」の育成に取り組み、その成果が評価されました。

大変おめでとうございます。

表彰式後、家族で記念撮影

山梨日日新聞　2026年（令和8年）1月14日　水曜日

山梨経済

全国畜産発表会で最優秀

北杜の原さん夫妻

北杜市高根町村山西割で肉用牛を生産する原広一さんと奈美さん夫妻は、2025年度の全国優良畜産経営管理技術発表会（中央畜産会主催）で最優秀賞・農林水産大臣賞を受賞した。自給する餌を中心とした安心安全な生産や、高度な人工授精技術による繁殖管理が評価された。アニマルウェルフェア（動物福祉）にも配慮して牛と向き合っていて、原さん夫妻は「やってきたことが評価されてうれしい」と話す。〈杉原みずき〉

発表会は昨年11月下旬に東京都内で開かれ、書類選考と現地審査を通過した全国の計8組が出場した。

原さん夫妻は畜産を始めた先代から、19年に経営を引き継いだ。近隣7カ所で牧草を栽培。飼料代を抑えつつ安心安全な生産につなげ、出荷牛のうち98％以上が「甲州牛」として認定されている。地元産の餌にこだわり、地域の米農家からもらい受けた稲わらも与えている。

安心安全な生産、繁殖管理評価

夫婦ともに家畜人工授精師と受精卵移植師の資格を持つ。広一さんが県酪農試験場（当時）や県子牛育成協会に勤務し、牛の人工授精や受精卵の移植を学んだ経験も生かして、家畜人工授精所を開設していい血統の牛の繁殖に取り組む。情報通信技術（ICT）も活用して効率的に管理し、1頭当たりの出産間隔を短縮。地域の酪農家と連携した繁殖も進めている。

牛のストレス軽減にも気を配る。暑さ対策として牛舎の扇風機を増設。子牛のスムーズな離乳を促すため、痛みを伴わない鼻輪を導入するなどしていて、昨年8月にはアニマルウェルフェアの県認証を取得した。奈美さんは「牛に安心してもらうことで信頼関係をつくることができる。尊い命として大事にしたい」と話す。

奈美さんは牛にちなんだグッズも集めるなど「牛が大好き」と言い、「表情や行動が毎日違って面白く、仕事が楽しい」と笑顔を見せる。広一さんは「暑さで牧草の管理も難しくなっているが、いい血統の牛を増やし、安定的に生産を続けたい」と話した。

牛に餌を与える原広一さん（左）と奈美さん＝北杜市高根町村山西割

最優秀賞を受賞した（右から）原広一さん、息子の広武さん、奈美さん＝東京都内

地元紙でも紹介されました

情報提供：広瀬様（元学園職員）